

(2012 年度山西大学奨学生レポート)

留学を振り返って

神谷俊之

留学中に出来た友人たち

留学を振り返ってまず最初に学校に来て驚いたことは、色々な国から留学生が山西大学へ留学に来ていたことです。アメリカ人、フランス人、アルメニア人、オーストラリア人、韓国人、タイ人、イスラエル人、タジキスタン人、ドイツ人など多くの友達と知り合いました。私は大学で英語を勉強しているので、留学したての頃は彼らと英語でコミュニケーションを取っていました。特にフランス人の友達とは毎日のように一緒にいました。彼は中国に2年以上住んでいて中国語はかなり流暢に喋ることができます。なので私がレストランに行くときや買い物に行くときはいつも彼を頼ってばかりでした。しかし、すべて頼ってばかりだと自分の中国語が成長しないので分からなかったときは彼に聞いて答えられる質問などは自分で答えるように努力していました。そのおかげで半年を過ぎたあたりから彼とは英語ではなく中国語で会話をするようになりました。彼は今でも私の英語の先生であり、中国語の先生でもあります。私が中国語で何か分からないことがあれば wechat (中国で人気の日本の LINE のようなアプリケーション) で質問して、彼は丁寧に答えてくれます。帰国してもこのように連絡はとり続けている友達がいて大変嬉しく思います。これからも彼とは連絡と取り続けたいと思います。

中国人の友達との学習

中国人の友達からは色々な面で助けてもらいました。特に中国語の学習の際にはよく中国人の友達と一緒に勉強をしました。よく一緒に勉強する友達は山西大学の日本語学科の学生で日本語が上手なので分かりやすく教えてくれます。彼女が中国語を教えてくれるかわりに私は日本語を教えていました。日本語を教えていくうちに語学というのはとても複雑で難しいと感じるようになりました。それはある日、中国人の友達が「気持ちと気分の違いはなんですか？」という質問をされたのですが、私はうまく答えることが出来ませんでした。日本人の私からするとこういったことを考えたことすらなかったのに、外国人にとってはこういった違いが気になるようです。私も中国語を勉強していて似たような言葉の違いを彼らに質問しますが、たまに彼らもうまく答えられないことがあります。このように相互学習をしていると今まで気づけなかったことにお互い気づくことが出来て、とても面白いと思いました。

太原について

私は留学に行く前にこれから住む太原とはどういう街なのかインターネットで色々調べました。しかし、太原の情報をあまり入手することができませんでした。元々旅行が好きでいつも旅行に行く前にどんな街か、食べ物は何が有名かなどを入念に調べるのですが太原の場合情報がほとんどなかったのが、留学に行く前はどんな街なのか全く想像が出来ませんでした。そして留学初日の日に太原に着いてすぐに思ったことは都会だなということです。東京の様に高層ビルが多く、また車やバイクが道を縦横無尽に駆け回っていました。まさに典型的な都会です。しかし少し古びた建物や路地も多く、田舎と都会がミックスしたような都市です。街には公園なども多くありよくカップルがデートをしています。またお爺さんやお婆さんもよく公園で見かけます。みんな各々好きなことをしていました。例えば音楽をかけながらダンスをしてる人や、笛を吹いている人、またお喋りをしている人など公園を歩いているだけでも良い気持ちになります。そのような光景は日本ではあまり見かけられないので、少し寂しい気持ちになりました。私も時間があれば留学生の友達や、中国人の友達と一緒に公園へよく行っていました。彼らとはお喋りをしたり、バトミントなどをしていました。私にとって太原での生活の中で公園は大事な場所でした。

太原での出来事

ある日、大学の近くの大きな通り沿いにある多くのお店が取り壊されました。壊される前にその道沿いにあるお店は、道端で商品を並べて商売をしていました。しかも多くの人で賑わっていて、私は何かイベントでもあるのですか？と中国人の友達に尋ねたところ友達は、ここの道沿いにあるお店はこれから壊されるから、お店の人たちは商品を早く売りたいと道端で商売をしてると教えてくれました。私はなぜ壊されるのかと聞いたら、道を広くするためと言われました。友達の話によると最近太原の市長が変わり、市長は以前山西省大同の市長で彼のおかげで古い建物が取り壊され、今大同は綺麗になったと教えてくれました。そして今彼は太原の市長になり大同と同じように古い建物などを取り壊し、街を綺麗にしようとしているのだと。私はお店の人たちはそのことに同意しているのかと聞いてみたところ、同意をしてない人もいると答えました。私はこの話を友達とした後とても衝撃を受けました。市長が街をもっと綺麗にするためにやっているのは分かりますが、同意もなしに取り壊してしまうのはとても考えられないと思いました。今中国の経済は著しく発展しておりこれからはとても楽しみです。このようなことは改善していくべきだと私は思いました。

中国の音楽フェスティバル

友達と中国の音楽フェスティバルに行く機会があり、北京の音楽フェスティバルに行ってきました。北京电子音乐节という音楽フェスティバルでこのフェスティバルは中国人の間ではあまり知られていないようですが、中国に住んでいる外国人からは結構知られていて、私は山西大学の留学生の友達から誘われて一緒に行くことにしました。北京へは快速の電車を使い、かかった時間は大体 2 時間ほどで片道 200 元ぐらいでした。普通列車は 69 元と安いですが 10 時間近くかかり、また椅子も固くて座り心地が悪いと聞いたので、値段は少し高くなりますが北京に行くときは快速の電車がおすすめです。北京に着いたら、以前北京で知り合った中国人の友達と合流してからフェスティバルの会場に行きました。彼らは日本音楽がとても大好きで、彼らは私に「中国と日本の関係は悪いけど、音楽も人も国籍は関係ない」と言ってくれました。私もその通りだと思います。中国と日本の政治の関係はいいとは言えませんが、そのことによりその国の人を嫌いになるのは間違いだと思います。そういう面で私はこの留学を通して中国の色々なことについて知ることができました。自分の国にいる時よりも海外にいた時の方が当然外国人と接する回数も多くなり、それにより海外の情報を多く知ることができます。その意味でこの留学は中国、また他の外国についても知ることができました。私は彼らと出会い本当に良かったと思いました。そしてフェスティバル会場に着いた時には多くの人で賑わっていて、来ているお客さんの 7 割ぐらいは外国人でした。またこのフェスティバルの会場が工場ということでとても驚きました。夜にはライトアップがとても綺麗で、また音楽もとても良くとてもいいフェスティバルでした。毎年北京で開催されているのでまた来年も行ってみたいです。

中国のテレビ番組に出演

中国人の友達の紹介で、同じ埼玉の親善大使で留学をしている吉田さんと一緒に山西省のテレビ番組に出ました。このテレビ番組は障害物をクリアしていき、ゴールを目指す番組です。日本のサスケという番組の中国版のようなものです。私たちは山西テレビ局に行き、そこから同じ参加者の中国人の方たちと一緒にバスで会場の近くのホテルに向かいました。ホテルに行く途中テレビ局の人が、いきなりみんなに自己紹介をするようにと言い一人一人に聞き始めました。乗客の人たちは自分の特技を披露したりしてバスの中は大盛り上がりでした。ある人は歌を歌ったり、ある人はマジックをしたりしていました。そして私たちの番になったときに私たちは特にその場で見せるような特技もなく、ただ自己紹介をしたただけでしたが、乗客の方々から大きな拍手をもらいました。

そのあと彼らは私たちにお菓子をくれたり、話しかけてくれたりしました。そしてホテルに着き、一泊した次の日にテレビ番組に出演しました。私と吉田さんはゴール出来ませんでしたが、一緒に参加した中国人の方々と仲良くなる事が出来て良かったです。日本に帰国した彼らとは今でも連絡を取っています。中国に留学する前はやはり反日というイメージが強く、友達が出来ないのではないかと心配もありました。しかし自分が日本人だと分かった途端話しかけてくれたり日本に興味を持っている人たちが多く、今までの想像と違っていても嬉しかったです。もし私が中国に留学していなかったらずっと中国は反日というイメージを持っていたかもしれません。なので中国へ留学して中国という国をもっと深く知れたと思います。

留学を終えて

この留学を終えて一番の収穫は自分の性格や考え方が日本にいた頃よりも少し変わったことです。変わった理由としては、日本と中国の文化の違いからだと思います。例えば、私が中国人の友達という時に、日本と違って何かを伝えるときにストレートに伝えないと伝わらないこともよくありました。日本にいた頃は何かを伝えるときにストレートに言うのではなく、少し表現を和らげて言っていました。しかし、中国ではそのような伝え方では伝わらないため、中国に留学に来てからはストレートに伝えるように心がけました。そのうち自然にストレートに物を言うようになりました。私はこのように物事をストレートに伝えるということは、外国人と会話をする中でとてもプラスになると思いました。なぜなら英語を使って会話をするときも中国語と同じように物事はストレートに伝えることがほとんどだからです。なのでこの経験を元にこれからも色々な外国人と接していきたいと思います。最後に埼玉県庁の皆様、大変貴重な機会をくださってありがとうございました。また海外へ行った時には埼玉県のPRをしていきたいと思います。



同じ留学生の友達たち



空港で見送りに来てくれた友人たち